

**鶴見区地域子育て支援拠点事業
2021年度重点目標評価結果・次年度重点目標**

事業実施期間	2021年4月1日～2022年3月31日(4年度目／5か年度)
事業の実施者	社会福祉法人青い鳥 鶴見区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鶴見区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることのできる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

1 2021年度重点目標の評価

2021年度 重点目標	<p>【重点目標1】 妊娠期からの切れ目のない支援を目指し、妊婦が訪れたいきっかけづくりや産後の継続利用につながるようなひろばづくり、拠点の持つ7事業を活かした試みを母子保健コーディネーターと連携しながら検討する。</p> <p>【重点目標2】 孤立しやすい環境の養育者が身近な場所で子育ての支援を利用できるように、地域の子育て資源の機関と連携し、地域で子育てをする土壌を作っていく。</p>
取組内容	<p>【重点目標1】 ○妊娠期から産後へと継続した支援となるように、妊婦のニーズを母子保健コーディネーターと共に把握し、妊婦が訪れたいきっかけづくりや産後も継続して利用につながるようなひろばづくりに努める。 ○サテライトでも、妊婦の利用が進むような試みを検討する。 ○子育てパートナーは、周産期の方への支援を一つ一つ積み重ねながら母子保健コーディネーターとの連携を深め、拠点の持つ7事業を活かして妊娠期からの切れ目のない支援を目指していく。</p> <p>【重点目標2】 ○拠点から遠い地域でアウトリーチ事業を実施し、利用のない養育者へ向けて、情報提供や相談を行う。 ○アウトリーチ事業を通して、地域の子育て支援関係機関との連携を深め、地区担当保健師と共に、地域の子育て資源を確認し、地域のつながりづくりを検討する。活動で得た情報をまたネットワークに提供していく。 ○拠点利用をしにくい養育者に地域情報をお届けするために、ホームページやSNSでの情報発信とその周知を強化する。</p>
取組の成果	<p>【重点目標1】 【振り返り】 ○区と連携し、母子手帳交付時や両親教室で、子育て情報の提供を行うことができた。 ○産前から居住地域を意識できるように、拠点のアウトリーチ事業や地域の子育て支援情報の紹介をすることができた。 ○区と連絡会を毎月開催し、妊婦のニーズ把握や必要とされる支援について、継続的に協議を行うことができた。 ○感染対策を講じたうえで妊婦向けイベントを再開することができ、妊婦とその家族の来所のきっかけとなった。 ○ひろばにマタニティコーナーを設けて、本の掲示と貸し出しを行い、継続的な来所につなげることができた。また、ベビー服のリサイクル品の提供も好評であった。 ○手作りおもちゃをつくる会「はんどめいどくらぶ」を実施し、乳幼児の養育者との交流や継続来所につなげることができた。 ○子育てパートナーが妊婦と交流する中で、子育て支援事業や子育てサポートシステムについて丁寧に伝えることができた。 ○妊婦とその家族の利用が増え、継続利用も見られ、切れ目のない支援につながっている。 ○地域の関係機関に向けて、拠点事業を紹介しながら、妊娠期からの切れ目のない支援の重要性を伝えている。さらに、支援に興味を持つ関係機関に対して、イベント見学の受け入れや情報提供を行うことができた。</p> <p>【重点目標2】 【振り返り】 ○拠点から遠い様々な地域でアウトリーチ事業を実施し、遊びの紹介、情報提供、子育て相談を行うことで、拠点利用のない親子と交流することで、地域の特性を知ることができた。 ○アウトリーチ事業に、地域ケアプラザ、保育園、親子のつどいの広場などの開催地域の支援関係者が多く参加し、イベントの紹介や子育て相談を行い、親子が地域の資源を知るきっかけにすることができた。また、支援者同士も、地域の特性や子育て支援について情報交換することができた。 ○子育て支援資源の少ない場所で親子に出会えるきっかけづくりとして、小さな公園を回る「ぶちキャラバン隊」を企画し、地域関係者と連携しながら準備を行うことができた。 ○区と地区懇談会を実施し、アウトリーチ事業や子サポの活動で得た地域情報を報告し、地域の課題を共有した。 ○コロナ禍で、外出を控えて孤立がちな親子に情報が届くように、Twitter、Instagram等のSNSを活用することで、拠点や地域の子育て支援の情報発信を強化した。 ○拠点ホームページで、の地域別カレンダーによる情報提供の周知を強化した。コロナ禍で、提供できるイベント情報が少ないこともあり、認知度があまり高くないのが現状である。</p>
取組の課題	<p>○妊娠期のイベントは沐浴体験を中心にニーズが高いことは把握できているが、コロナ禍で人数制限をせざるをえない等により、予定していた回数を実施することができなかった。また、希望者には、個別対応も実施したが、ニーズに応えられないこともあり課題が残った。今後は、区と共に対策を検討していきたい。</p> <p>○今後も区や関係機関と連携して、地域性を踏まえたアウトリーチ事業を展開していく。</p> <p>○地域の子育て支援情報を、妊娠期を含めたより多くの親子に届けられるように、様々な方法を検討していく。</p>

2 次年度重点目標

2022年度 重点目標	<p>【重点目標1】 妊娠期から地域とのつながりを持ち、養育者が適切な時期に適切な情報を活用できるよう、区と協働しながら仕組みを構築していく。</p> <p>【重点目標2】 鶴見区の子育て支援の課題を、子育てに関わる様々な関係機関(鶴見区子育て支援ネットワーク)と共に共有し、課題解決に向けて共に活動できる仕組みづくりを目指す。</p>
取組内容	<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SNSや親子が集まるような場を利用した情報発信を活発化し、拠点情報だけでなく地域の子育て支援情報を区民目線で内容を整理し、情報発信を強化していく。 ○妊娠期から子育て支援情報にアクセスしやすいように、妊娠期から参加できるイベントの実施や様々な場所での情報発信を強化する。 ○地域性を踏まえたアウトリーチ事業を展開し、関係機関と協力しながら、子育て支援施設が少なく情報が届きにくい場所での情報提供に努める。 ○ネットワークの力を活用し、多様な情報を収集し、情報内容の充実を図る。 <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鶴見区子育て支援ネットワーク会議を開催する。感染症対策としてオンライン実施も視野に入れて準備を行う。 ○会議では、鶴見区の子育て支援の課題を共有し、その課題解決に向けて継続的に連携できる仕組みを検討する(部分ネットワーク会議の充実等)。 ○継続的な連携を視野に、拠点のあらゆる機能の連動を意識していく。